

3. ホット情報 ～27年4月開校～

鹿児島県立楠隼中学校・楠隼高等学校 (併設型中高一貫教育校)

鹿児島県大隅半島のほぼ中央、風が吹き抜ける緑豊かな高台に、約8万6,000平方メートル、東京ドーム約2個分という広大な敷地に、全寮制の県立楠隼中学校・楠隼高等学校が誕生しました。

楠隼7スタイル（楠隼の学びの核となる7つのコンセプト）

- 1 中高7限授業による学習指導：一人ひとりの夢を育み難関大学への道も拓く
- 2 ことばの教育や外国語教育：実践的な思考力・表現力等を育成する
- 3 シリーズ宇宙学：JAXAとの連携により探求心や科学する心を育む
- 4 魅力的な体験活動：地元をはじめ、かごしまの自然・歴史・文化を味わう
- 5 産業界や内外大学との連携：特色あるキャリア教育により視野を広げる
- 6 寮での学習指導員の配置：充実した学習環境で学力の定着を図る
- 7 仲間とともに送る寮生活：規則正しい生活で自立心を育てる



完成予定模型



寮の玄関



居室の見学の様子



平林先生（JAXA名誉教授，理学博士）



東京大学工学部航空宇宙工学科との交流会の打ち合わせの様子

ともに見えないものを求めて

県立楠隼中学校・高等学校校長 山崎 巧



本校は、いよいよ本年4月11日に開校することとなります。

私はまだ見えぬ県立楠隼中学校・高等学校という学校の学校像を次の3つの観点からとらえています。

まず、一つは、全寮制が仲間とともにある成長を促してくれるということです。寮には、多様なスタッフが配置されますが、寮の主役として一期生は、先輩が誰もいない中での学校作り、寮作りに協力することとなります。お互いがお互いを理解し尊重するには、おそらく時間がかかりますが、それを乗り越えて成長する姿に最大の期待をします。仲間作りは、強烈な思い出、絆と呼ぶにふさわしい関係を作ってくれます。生涯の仲間は宝、生きゆく原動力にもなるかと思えます。

次に、この学校と寮のふんだんな体験活動や部活動で、「視野」を大きくしてほしいということです。実感から視野は生まれ、視野は好奇心につながり、好奇心は志(夢)につながります。楠隼の学びは、この肝付・大隅・鹿児島其自然や歴史、人々から学び、次に日本や海外から学び、最後に宇宙から学ぶかたちとなります。宇宙学は手作りテキストを用いて、JAXAの方々から来年10人以上来ていただき、宇宙学書籍の最も充実した学校とします。天地人を学び、ここから志ある本物のリーダーが巣立つことを期待します。

最後に、志を支えるものとして「ことばの学び」があります。楠隼独自の教科「ことば探究」は、手作りテキストで考えを筋道立てて表現する能力を育成します。仕事・遊び、スポーツなど、全てが自分を表現する作業。自分や自分の見える世界を表現・デザインできる能力を育てたい、そしてその力が、外国語に及んでいくことを期待しています。海外研修で言葉に目覚める出会いをしてもらいたいと思います。

また、楠隼には全く新しいところが3点あります。

まず、全寮制の寄宿舎、この木材作りの「楠隼寮」です。今、本校事務職員が心を込めて備品を選んでいきます。舎棟6つの名は、一期生に決めてもらえればと思っています。

次に「手作り」の教育内容。ことば探究、宇宙学、農業漁業民泊体験、かごしま探訪、自頭流、フロンティア訪問、海外企業連携研修、食育など、手作りで立案・具体化しています。

さらに、「教職員」です。正義感、子どもを大切に思う気持ち、授業に対する姿勢、どれも秀逸です。ほとんどが県教育委員会の係長級、指導主事や各学校の主任級・研究団体の会長級の方々に来てもらっています。何よりものづくりの精神、清新の気風がございます。

最後に、本校は、学力差を克服するシステムを、学校と寮の双方を生かすかたちで作っています。また、学校目標を持って高い学力水準を育成するかたちも構築しているところです。

高校二年の後半に、基礎・基本の知識体系を持ち、目標に向けて主体的に進められる学習の方法、習慣、態度を身につけることが本校の目標であり、それらが難関大学や海外大学等の進学を可能としていきます。民間の力も大いに活用します。入試制度も大きく変わる時に、基礎・基本をしっかり身につけ、何を学んできたのか、何のために学ぶのかを表明できる姿勢や能力を育成する必要があります。楠隼の多様な教育活動はそれを視野に入れていきます。楠隼が最も強いのは、ともに学ぶ仲間がいる、懸命に教える教職員がいるということです。一緒にまだ見えない新しい学校と寮を果敢に創っていきましょう。皆さんの本校への入学を心からお待ちします。